○議長（小林哲雄）

一般質問を続けます。

4番、下山千津子議員、どうぞ。

○4番（下山千津子）

4番議員、下山千津子でございます。

通告に従いまして、次の質問をさせていただきます。今こそ北部地域の諸課題を官民の英知で解決すべき時と思うが、どうか。

本年3月に開成町北部地域交流活性化懇話会により大変すばらしい提言書が出され、その内容は平成26年「広報かいせい」5月号に掲載されました。町が農家と一緒に守っていきたい農の風景の保全や再生、新規就農者の育成をはじめとした担い手の確保などによる北部地域の農業を生かした里づくり、さらには農業、水、文化をキーワードに田園景観と交流拠点の保全と創造を図るために、酒造店の再生や農業体験ハウス、農家レストラン、農産物加工所や直売所などの新たなふれあい拠点の整備が必要であるとまとめられています。

町では、これまで、平成20年度からの北部農地の活性化検討をはじめとして6次産業化の展開事業計画の策定、さらに今年度はあしがり郷拠点整備事業基本計画の策定に取り組まれています。しかし、検討や計画ばかりが聞こえてきて、一向に総合的な北部地域の目指す姿が見えてきません。そこで、2020年の東京オリンピック、パラリンピック開催を見据えつつ、北部地域ビッグプロジェクト5カ年事業として事業を官民の協働で推進する必要があると思ひ、質問をいたします。

1、この提言書がまとめられた経緯と町としての扱いは。2、現在策定中のあしがり郷拠点整備事業基本計画に、この提言をどのように反映するのか。3、事業の具体化に向けた現状における諸課題や問題解決に、どう対応していくことが望ましいのか。4、地元の農家を含めた地域発展への推進体制について、どう考えるか。以上、質問をいたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、下山議員のご質問にお答えします。

個々の質問に入る前に、北部地域に対する私の考え方について、先にお話をしたいと思います。

開成町は、歴史的に町を北部、中部、南部の三つのエリアに大別して土地利用を考えてきました。その結果、町全体としてバランスのとれた発展を遂げて今日に至っていると。それは、既に皆さん、ご承知のとおりだと思います。第五次開成町総合計画でも、これまでの考え方を踏襲して、それぞれ北部エリアを「ふるさとゾーン」、中部エリアを「くらしゾーン」、南部エリアを「ときめきゾーン」と位置付けをしています。

ふるさとゾーンであり足柄平野の原風景とも言える開成町北部の美しい田園風景

は、将来への大きな資産として保全していく必要があります。しかし、開成町におけるこれからの人口の高齢化や流動化を勘案したとき、特に、北部地域を中心とする町内の農業のあり方がここ数年以内に大きな転換期を迎えるであろうことは明白であり、早急にさまざまな施策を計画し実施する必要があると認識しております。

例えば、農業の担い手問題を根本とする農地の保全や、これからの農業経営のあり方、町の特産物の開発・普及や観光資源の発掘、連携、地域コミュニティの活性化等の課題があります。これらの課題に対して、そこにお住まいの農業従事者をはじめとする皆様のご意見やご提案を基本に、民間ベースの取り組み等も連携しながら、元氣な開成町の明るい未来の実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。

このような視点から、ご質問にお答えしたいと思います。

最初の提言書がまとめられた経緯と町としての取り扱いについてであります。冒頭にお話ししました第五次開成町総合計画に基づき、平成25年度に、あしがり郷瀬戸屋敷を拠点として景観などの地域資源を活用し北部地域への交流人口拡大を図ることを目的として、地元自治会や各種団体の代表、アドバイザーから成る開成町北部地域交流活性化懇話会を設置し、北部活性化に向けた懇話会を6回開催し、提言書として町に提出をいただきました。

提言書では、北部地域の資源である農業、水、文化をキーワードに掲げ、水路やあじさいを生かした田園景観と交流拠点の保全と創造として、酒造店の再生や農業体験ハウス、農家レストラン、農産加工所や直売所などの新たなふれあい拠点の整備を必要としております。また、町が農家と一緒に守っていききたい農の風景の保全や再生、新規就農者の育成を初めとした担い手の確保など、北部地域の農業を生かした郷づくりを提案いただきました。平成26年度は、この提言を最大限生かし、町として、さらに検討を重ねながら、具体化に向けた基本計画などの策定に取り組んでいきたいと思っております。

次に、これまでのあしがりの郷を拠点にした整備事業計画に今回の提案をどう反映するのかについて、お答えします。

北部地域に関連して、これまでに町が策定した計画は三つあります。主に、農用地利用計画、農業生産基盤の整備・開発計画を示した開成町農業振興地域整備計画、瀬戸屋敷の再生と農道、公園、水辺環境の整備を計画した平成13年度農村振興総合整備事業計画、そして地域資源や瀬戸屋敷を活用して6次産業化を図ることについて検討整理した平成23年度開成町北部農業振興地域における地域資源を活かした6次産業化の展開事業計画、この三つがあります。

本年度に策定している開成町あしがり郷拠点整備基本計画及び瀬戸屋敷周辺整備基本設計は、これまでに策定された計画の内容を整理した上で検討を加え、開成町北部地域活性化に向け、各計画で浮き彫りとなった内容を整理します。また、暮らし・地域文化、環境・景観、農業・農地保全、学習・体験交流、6次産業化、着地型観光、瀬戸屋敷の活用の体系別に事業展開を検証し、あしがり郷拠点整備及び瀬戸屋敷周辺整備の基本設計に反映をさせ、今後の北部地域の将来の展望を図ります。本年度、策

定する基本設計を受け、順次、町で行わなければならないこと、民間で実施いただくものを精査し、実施設計を行っていく過程で実施主体ごとに整理を図っていきたくと考えております。

次に、現状における諸課題の解決にどう対応していくことが望ましいかについて、お答えをいたします。

今後の諸課題の解決には、地元の農業者の皆様と膝を交えて意見をよく聞き、その意見、考え方を踏まえながら現状を改善するなど、すぐにできることから始め、これまでの取り組みをさらに発展させていきたいと思っております。2020年の東京オリンピック、パラリンピックにかかわらず、農地の保全と推進体制を確立するなど新たな取り組みの実現性を検討し、可能性のあるものから進めていきたいと思っております。

そのほか、瀬戸屋敷の保全活用と学習・交流体験、着地型観光、6次産業化の取り組みを連携させて、地域外とのつながりをつくっていきたくと思っております。また、地域外の人材やノウハウ、資金を地域内に還元する流れをつくり、暮らし・地域文化、環境・景観、農業・農地保全をつなぐ機能を確立していきたくと思っております。これからの地域維持・発展の姿としては、地域の維持・発展に向けて、学習・交流体験、着地型観光、6次産業化の取り組みを総合的に展開させる効果的な形態や仕組みを整えていきたくと思っております。

農家の後継者対策としては、開成町の地域農業が抱える人と農地の問題解決に向け、地域での話し合いを受けて「人・農地プラン」を策定し、農地の保全を進めます。また、農用地の利用の効率化及び高度化の促進のため、平成25年に法制化された農地中間管理事業を活用し、神奈川県知事より農地中間管理機構として認定された公益社団法人の神奈川県農業公社が仲介をし、農地の借り受け・貸し付け、遊休農地の耕作可能な農地への復旧や改良、借り受け農地の保全管理を行うなど農地利用の集積、集約化を進め、農作業の省力化や低コスト化、高度化を図るなど、地域の課題解決と活性化の取り組みを段階的に進めていきます。

このように山積する課題に対し、町として北部地域活性化のために職員を配置するなどの体制づくりも検討していきたくと考えております。

最後に、地元の農家を含めた地域発展への推進体制についてであります。開成町は稲作を中心とする農業生産が展開をされ、経営の発展を図るため一部の農家で施設園芸や転作物であるお茶の導入がなされております。また、明治から昭和にかけて盛んに栽培され、その後、衰退した開成町ゆかりの里芋、弥一芋を復活させ、町の特産品にしようという試みが地元農家らの手によって進められております。お茶については、担い手の法人化を促進し、産業として成り立つ農業経営体として育成を図り、弥一芋については生産量の拡大を図っていきます。

第五次開成町総合計画では、農業経営の活性化のための農業所得の向上策として6次産業化の推進をしています。その手段としては、農産物の付加価値を高めるため、地場農産物のブランド化を推進しております。また、農業所得の向上を図るため、開成ブランド認定制度の推進や、農・商・工連携による農業の6次産業化を推進してお

ります。地産地消を推進するため、消費者ニーズに対応した農産物の生産の推進や販売方法の拡大を進めます。観光資源を活用したグリーンツーリズムの推進や環境保全型農業による人と環境に優しい農産物の生産を行い、農産物の価値向上を図ります。また、加工品の開発や既存加工品の価値向上として、弥一芋のさらなる加工品開発、瀬戸屋敷周辺での季節ごとの体験交流事業の推進などの事業推進を今後、図っていきます。農地を守り農業を維持していくために、農業者のご意見を尊重し、地域農業の将来像をまとめていきたいと考えております。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

ご答弁をいただきました。今のご答弁では、2020年の東京オリンピック、パラリンピック開催にかかわらず、実現性を検討し可能性のあるものから進めるとのことでした。私の今回の質問は、北部地域の望ましい姿を、どのような手法で実現するかということを目的にしております。したがって、実施計画または実施設計をいつまでに町民へ発表・公開できるのかが最も大事なことで、町民も待ち望んでいるわけです。

先ほどの町長の所見にもございましたが、開成町が全国に誇れるまねのできない施策は、町を三つのエリアに分け、特に、北部エリアのふるさとゾーンは、足柄平野の原風景とも言える大変美しい田園風景を資産として保全されていくという町の姿勢にあると思います。町民からも、そのようなお声はたくさんお聞きいたします。これらを踏まえまして、再質問をさせていただきます。

まず、第1問目ですが、平成26年度は、この提言を最大限生かし、さらに検討を重ねながら、具体化に向けた基本計画の策定に取り組んでいると答弁がございました。平成26年度も残り少ないわけですが、進捗状況をお伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

町長答弁にもございましたけれども、今年は、今までそれぞれ計画、提言、いろいろいただいているわけでご覧になって、それを一堂に会しまして、まず整理をさせていただきます。平成13年には農村振興総合整備事業計画、そして平成23年度、開成町北部農業振興地域における地域資源を活かした6次産業化の展開事業計画、それと開成町農業振興地域整備計画、さまざまな計画がございます。こういった計画に即した中で、今まで開成町としていろいろ提言を受けた中で、今後、こういったものに取り組んでいこうか、そういったところの整理をまずさせていただくために、本年度は、あしがり郷拠点整備及び瀬戸屋敷周辺整備検討会、これを設置し開催をしているところでございます。

こちらのほうで、今までのそういった計画等々、整理をさせていただきながら、地域の方々、代表の方々を含めて、何が今後、北部にとっていいだろうか。または、最終的には、いろいろお話がある中で、町としてこれをやっていこうといったものを決める年というのが平成26年度でございます。会議は第1回を開催いたしました。今後、第2回、3回とやっていく段階において、北部の活性化というのは大変注目を集めてございますので、中間の段階で議員の皆様にも中間報告という形でできればなといったことも考えていきたいなというふうに思っております。

いずれにいたしましても、今年が基本設計、基本計画、そういったものの組み立てをさせていただいて、今後の実際に何をやっていくかという実施計画に向けた基礎づくりという年に位置付けをさせていただいているところでございます。

以上です。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

私が答弁をいただいて一番感じるのは、いつも、いつから実施するのかが明確に見えてきません。懇話会の提言が発表されてから、町民は強い期待と関心を持っておられます。事業化に向けては地元にて丁寧な説明が必要でしょうし、理解や協力をお願いして賛同いただくプロセスを考えますと、すぐにでも地元に入って理解が得られるまで誠心誠意接し、北部活性化のための胸襟を開けば誠意は伝わるはずですから、官民の英知でぜひとも前進していただきたいと思いますが。先ほども町長が地元に入って努力をするというようなご答弁を午前中の同僚議員のときにおっしゃっていましたが、それが、いつ具体的に入っていかれるのか、いつ説明されるのか、お聞きいたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

今年度に懇話会から出た提言に対して、それを具体化するための今、計画づくりをしていますので、今年度中に計画ができれば、来年度、それを持って、今度は地元の人たちにきちんと説明をして協力を得られるようにやっていく。来年度に、それは地元の皆さんに私がお話に行きたいと考えております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

私、通告の中でもお話ししましたが、北部地域ビッグプロジェクト5カ年計画の事業といたしましては、平成20年度から開始するというのは時間がないのではないかと思います。その点、いかがでしょうか。

○議長（小林哲雄）

○4番（下山千津子）

理解いたしました。

次に、瀬戸屋敷関連の交流体験、着地型観光、6次産業等、地域外とのつながりをつくることについては、各年度ごとの事業内容や経費などを具現化して、ぜひとも町民に示せるよう関係者と検討していくことが必要だと思いますが、この考え方についてはどのような所感をお持ちか、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

瀬戸屋敷周辺整備の関係において、今後、町民の方々にいろいろお知らせをしていくといった部分につきましては、先ほど町長答弁にもございましたけれども、基本計画が策定されて地元詳しく説明に入っていきたいというふうに考えてございます。以上です。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

瀬戸屋敷周辺の要望として、休憩施設や食事どころ、お土産どころなど、多くの来場者や関係者から強い要望があるわけですが、観光交流人口を増やして魅力ある拠点にするには、すぐにでも形にするのは難しいでしょうから、形になる前の段階として、現在、瀬戸屋敷、瀬戸屋敷クラブ、郷の市、古民家ガーデン紋蔵と四つの既存の団体が北部地域活性化のために頑張っているわけですが、横の連携が余りとれていないということでした。行政が調整役となり連携がとれましたら、これまでの課題解決につながり、早急に要望が実現し、北部地域活性化につながる有意義な展開ができる可能性を私は強く期待するところですが、この考えはいかがですか、お聞きいたします。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

瀬戸屋敷を中心といたしました、いろいろ活動をしていただいている団体があるところは認識をしているところでございます。特に、NPO法人の方々におかれましては、開成町の北部を私たちの手で活性化しようというような意気込みを常日ごろ感じているところでございます。そういったNPO法人の方、また瀬戸屋敷や瀬戸屋敷クラブ、いろいろ行事等々、それぞれ個別にやっている行事もでございます。連携をとったほうがいいのではないかなというような行事もでございます。

今年のおじさい祭におきましては、近隣のところでも、そういった連携が図られて相乗効果があったというような話も出ておりますので、そういった意味では、行政のほうでも、そういったそれぞれの団体が個々でやるのではなくて、一緒になって盛り

立てて同じ方向を向こうといったところの調整をするといった支援は、ぜひとも図っていききたいといった位置にあるということでお答えをさせていただきます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

南足柄市に神奈川県立ふれあいの村がございます。民間会社が指定管理者制度を導入されて、活発に活動されていると聞いてございます。私は3年前にも瀬戸屋敷の指定管理者制度について質問いたしました。そのときは、現状では受けられる事業者がないというお答えでした。今現在、瀬戸屋敷の運営は、関係各位のご努力で大変充実された運営がなされておるわけですが、さらにサービスの向上などを考えますと指定管理者制度の導入も必要かなと考えるところでございますが、その後の指定管理者制度の導入の状況はどんなふうになっておりますでしょうか、お伺ひいたします。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

議員ご指摘のとおり、瀬戸屋敷の指定管理者制度につきましては、平成24年度に指定管理者制度導入可能性調査といった形で町のほうも調査をし、議員ご指摘のとおり結果であったと聞いております。特に、指定管理をするに当たって大きなポイントとしては、一般の企業の指定管理を受けている企業の方々から聴取をしたところによりますと、基本的には、予算の圧縮が図られるとか、そういったところが一番メリットとして大きいのかなと。そういったところでは、指定管理を受けるには、もともと事業規模が少なく積算されていると。たしか、今現在でも1,100万から200万ぐらいの予算で全てを回しているというふうに思っておりますけれども、それを圧縮するのは、一つ、なかなか難しいと。

一方では、それぞれの、先ほど出ましたNPOの方たちに指定管理者になってもらい、管理に当たってもらったほうがいいのかというような結果を受けているところでございます。受けていただく方法としては、やはり、管理面、コスト面、そういったことをいろいろ考えながら、そういったことに当たらないといけないというようなところで、その調査結果が終わっていったかなと思うのですけれども。

そういった客観的な調査結果を受けまして、町といたしましても、お互いにメリットが出るような形、それを模索しつつ、そういった、これでいったら指定管理を導入したほうが指定管理を受けたほうも利益が出るし、町としても委託をしながら安心であるといった状態になるのが一番いい方法であるなというふうに考えております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

今のご答弁をいただきまして、北部地域が今後ますます活性化に向けて発展したら、そういうことが可能になるのかなというふうに印象を受けました。ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、神奈川県では、2020年までに箱根から南足柄市矢倉沢までの道路を開通させると聞いております。開成町においても、北部へのアクセス道路の整備は不可欠と考えております。開成町南小学校から開成町小学校までの中央通りが開通したところでございますが、それを瀬戸屋敷まで延長する計画は町民も強く望んでいるところでございます。南北に太い交通網ができ利便性が高くなれば観光人口や交流人口も期待でき、北部活性化につながる可能性は高いものと考えますが、そこで山北開成小田原線の整備に着手する、先ほど構想もあるようですが、町としての、それはいつごろになるというふうにお考えでしょうか、お聞きいたします。

○議長（小林哲雄）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（芳山 忠）

議員のおっしゃっている道路は、いわゆる開成中央通りがさらに北へ延びる、その区間がいつごろ整備されるかというお話だろうと思っておりますけれども、町としても当然、計画上は持っておりますし、早期に実現したいと思っておりますが、もう一つの問題として、既に現在、使っております道路、大口から新四つ角を抜けていく道路なんですけれども、いわゆる旧道の部分ですね、その道路についても現在、整備を県に要望しております。優先順位といたしましては、そちらのほうの拡幅整備を町としては早期に実施していきたいということを考えておまして、そちらのほうが終わる次第、開成中央通りをさらに北へ延ばしていくというところに優先順位を持っていきたいというふうに今は考えております。

以上でございます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

2020年にはオリンピックが開催されるわけですので、外国からの観光客だけでなく、国内外からも、あるいは町内からの足の利便性がよくなり、北部活性化のためには、ぜひともよろしくお願ひしたいと思います。

次に、瀬戸屋敷がオープンして10年近くになりますが、観光客や交流人口などは年間5万人前後の来場者がおられるようです。地元の方々に、一度も瀬戸屋敷に足を運ばれていない方がおられるとお聞きしております。まず、北部地域活性化の事業を成功させるためには、前にも申し上げましたが、瀬戸屋敷のコンセプトはみんなの我が家ということですので、まず地元の方々に愛され協力体制がとられないと盛り上がりませんし難しいと考えますが、この現状を私は重く受けとめております。観光客や交流人口も必要ですが、まずは地元の方々に親しまれて、来ていただけることが一番大

事に考えております。町長は、この点をどのように受けとめておられますか、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

確かに、瀬戸屋敷がある金井島地区の皆さんが、もっともっと、あの中に入り込んで協力してもらえるような体制をつくっていくということがすごく大事だと思います。特に、先ほど着地型観光の話がありましたけれども、開成町は箱根町と協力して、以前、柿もぎツアーなどもやっていただきましたけれども、開成町に着地型観光というのは、来ていただいて地元の地域の人たちがお客さんと交流をして、地域の農産物等を直接、農業体験ほか、もいでもらったり、それをその場でジュースにして飲んでいただいたりという、すごく大事なものは、地域の人たちとの交流が着地型観光の大事なものになってきます。

つい昨日ですか、県が未病も絡めて着地型観光のプレゼンをいろいろな人、一般の人も含めて説明会をしたという情報が入ってきましたけれども、その中に開成町の人も行かれて、開成町のPRをしていただいたということで大変ありがたく思っていますけれども、そのような中で開成町を外にPRしていくときに、地域の人たちがどのように外から来た人たちを受け入れる気持ちとしてあるかというのがすごく大事になってくる。

そういう意味において、瀬戸屋敷を地域の人たちが、もっともっと愛着の持てるような拠点として持ってもらうようにしていく必要はあると思います。そういった中で、今、いろいろな団体の皆さんがそれぞれ活動していますけれども、その連携も必要だという下山議員からのご指摘もいただきましたけれども、いろいろな団体も含めて、もっともっと我々行政が北部地域に出向いて行って、そのような話をしていかななくてはいけないのかなと、改めて。

計画ができ上がって、もちろん、その計画に沿って協力してもらえるような説明は来年度以降していきたいという話はしましたけれども、それとは別に、もっともっと身近な存在として瀬戸屋敷を活用してもらえるような形で、地元地域の人に、その重要性、また大切さを私が今度は話をしに行きたいなど。そういう場の設定も、ぜひ下山議員にしていただければ、そういうところに直接、自ら行くことはどんどんやっていきたいなど。できることからという先ほどの話ではないですけれども、できることから、2020年に間に合わせるためには、整備環境とは別に、今、どんどんできることをやっていきたいと思っていますので、そういう点にご協力をいただければ私も進んでいきたいと思っています。

以上です。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

今年度、あじさい祭のときに、民間の団体が北部地域、岡野、金井島、あじさいの里、ちょっと着地型観光とは違うと思うのですが、ご自分でチラシを北部地域のポイントポイント、農業、商業、文化施設などのチラシを作成されて、観光資源に大変寄与された団体がございます。そういう方たちのPR、北部のほうに人を運んでいただくのには、そういうことも大変大事だというふうに感想を述べておられました。ぜひ、そういう点でも、今、町長がご答弁いただいたような点でも、ご努力をお願いできればありがたいと思います。よろしくお願いたします。

次に、瀬戸屋敷から徒歩で5分程度のところに古民家の空き家がございます。お庭には美術品のオブジェが数個あったりして、とても広いお屋敷です。北部活性化の拠点の一つとして、この古民家を町が借りて文化施設として活用させてもらうというお考えはいかがでしょうか、お伺いたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

たしか、近くに、もう1軒、カヤぶき屋根の古民家が使われずに置いてあるということで、去年、実は、そこに娘さん2人が見えられて、我々もちょっとご挨拶を兼ねて中を見させていただいた記憶があるのですけれども。文化施設というか、どのように活用するかは別として、やはり行政もその中に入って、空き家であるのはもったいないので、特に、庭にはいろいろな作品が展示をしてあるという部分もありますので、できるだけそれをうまく活用できるような形で、娘さんたちと間に入って活用について考えていきたいなと思っています。

先ほどの中で、民間の人がいろいろな北部のいいところを地図に落としてということで、それを観光の一つとしてやっていただいておりますけれども、その場所の一つにもなるのかなと思うのですけれども、もっと大事なのは、いろいろな古い民家の塀があったり、これは瀬戸北支さんのところなのですから、そういう人たちの場所だけではなくて、その人たちが、もし、そこに訪れてくれたお客さんがいたときに、コミュニケーションができるような体制をつくっていくのもすごく大事なのだと。ただ、いろいろ見どころを地図に落とすだけではなくて、そこに訪れたときに、その地域の人と、地元の人とコミュニケーションがとれて、開成町というのはこれだけいいところなのだという、風景だけではなくて人もいいのだなというのを知ってもらえるようにするのがもっとすごく大事だと思うので。その点については、我々がもっともっと間に入って、その点のお願いをしていくようにしていきたいと思いますので、また、そのときにご協力いただければなと思います。よろしくお願いたします。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

実は、その団体に私も今年、かかわらせていただいたわけですから、今、町長がおっしゃったように、PRして、その通りを通るだけではなくて、今、瀬戸北支さ

んのお宅のお話でしたが、そういうことで協力をお願いに行きましたところ、庭まで入って見てもいいですよと。あそこは、開成町でも一つしかない水琴窟というものがございまして、ご主人が自らつくられたそうです。私が伺ったときにはちょっと周りが見えにくかったのですが、「言われたから、すぐに伐採して、きれいに水琴窟がお客様に見えるように整理したよ。おかげさまですよ」とかとおっしゃいました。

それで、ある人は北部をPRして、男の方なのですが、「北部のほうにお客様が見えたときには、何でも協力するから言ってください」と。「お茶でもお出ししますよ」とかと、男性の方がそういうふうにおっしゃいましたので、今、町長が言われたような施策が開成町でできれば本当に素晴らしいなど。おもてなしの心とか、そういう部分でも大変素晴らしいと思いますので、ぜひ、よろしく願いいたします。

次に、4問目の再質問でございますが、第五次総合計画では農業の6次産業化の展開を推進しているとのことご答弁でございましたが、現在までの具体的な成果や姿が見えてきませんので、ここで、どのような事業に取り組み、どの程度まで進み、今後、どんな展望を掲げられているかについて、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。

午前中も山田議員のほうから類似の質問を受けさせていただいておりますけれども、そのときに例として開成ブランドといったお話をさせていただきましたけれども、ちょうど23年に計画をいたしました6次産業の事業計画の中には、先ほど里芋の弥一芋、こちらの農業生産物に対する加工品の開発、そういったこともございますし、はたまた直接、地産地消ではないですけれども、開成町でとれた新鮮な野菜、そういったものを開成町で消費していこうといった取り組みでは、マルシェかいせいさん、毎週日曜日の朝にそういった開催をされていると。この日曜日にもマルシェ祭りというのを企画されていると聞いておりますけれども、そういった取り組みです。

計画を受けて、先ほどの町長答弁ではないですけれども、できることからやっているといったところで、議員さん、ご期待の内容に沿えるかどうかわかりませんが、できることからやっているという状況でございます。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

ぜひ、できるところから熱意を持ってお願いしたいと思いますが、今、弥一芋のお話が出ましたが、弥一芋は焼酎に加工されて町のブランドの一つになってございますが、普通の里芋と違いまして4年間も連作ができないそうです。用地をたくさんお持ちの方は苦労がないようでございますが、そうでない方は毎年の用地確保に大変ご苦労があるようでございます。弥一芋そばのブランドも認定されたようですし、販売ルートも安定しているそうです。先ほどのご答弁にもございましたように、弥一芋につ

いては生産量の拡大を図っていくと。あと、弥一芋のさらなる加工品開発にも取り組んでいくというご答弁がございましたが、町では、この用地の確保への情報提供などの支援はどのようにお考えでございましょうか、お聞きいたします。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

議員ご指摘のとおり、弥一芋の生産に当たりましては、いろいろお聞きしますと、やはり連作障害が出ると。一般的には、そういった根菜類の部分でも里芋の部分は比較的連作障害が出るというふうに聞き及んではおりますけれども、そういった意味からすると、毎年同じ場所で弥一芋はできないと、里芋はできないといったところは認識してございます。そういったところで用地の確保。

はたまた弥一芋の生産量の拡大、こういったものは、イオングループさんと今、連携をとらせていただいて、フードアルチザンと、食の匠ということで認定を受けておりますので、生産量の拡大というのは必須でございます。今年もマックスバリュで生産、出荷の時期を受けまして開成町でも販売をさせていただきましたけれども、大変好評だったというふうに伺っております。そういったことからいたしますと、そういった新たな用地の確保、そういったものは実際につくられている方々の悩みであろうかなというのは察するところでございます。

開成町は農業委員会、どこでも農業委員会はございますけれども、農地を貸すよ、借りたいよといった農地の貸し借りの仲介もしてございます。そういった情報も持っておりますので、そういったところを里芋の栽培者の方々にも、ご希望があれば随時提供させていただきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

下山議員。

○4番（下山千津子）

協力体制をやっていくというご答弁でございましたが、町でブランド化を弥一芋に対しては拡大するということですので、ぜひ本腰を入れて頑張っていただきたいと申します。

次に、地域農業の将来像をまとめていくとの意欲的な答弁を最後にいただきましたが、現在は、そのイメージの一つとして懇話会から諸提案が出されているわけですが、町としては、これらをもとにして基本計画にどう生かすというお話でございましょうか。

私の考えます、先ほどもちょっとお話を最初に出させていただいたのですが、ビッグプロジェクトは、2020年の東京オリンピック、パラリンピック開催までの5年間のタイムスケジュールのことを考えまして、いろいろお聞きした中で官民の英知で農業や北部地域の活性化に向けて実現してほしいですし、チャンスと考えてございます。プロジェクトを立ち上げることは私は大変意義のあることと考えますが、この考

えを町長はどのようにお考えか、お伺いたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

ちょっとプロジェクトのイメージが湧かなかったのですが、先ほど、北部に力を入れる以上は職員体制もきちんと整えていかなくてはいけないなという話もさせていただきましたけれども、やはり2020年というのは一つの区切りです。せっかく箱根から南を通して開成町へ来るお客さんが、そこで何百万人という、これを捉えない手はないので、それに間に合わせるように、できるだけ北部の地域の整備を2020年までにでき上がるように順次。今年度に基本計画ができて、来年度以降、きちんと地元説明会をしながら、できる施設からつくり上げていく。そこに、開成町の農産物がきちんと売れて、また6次産業化して付加価値を高めて売る場所ができればと。さらには農家レストランのように、その食材を使ったおもてなしもできるような場所。何でも行政が全部やるということではなくて、民間で進めていただけたところは民間に協力をしてあげて行政が支援してくという形のバランスをとりながら、総合的に2020年に間に合うように整備を考えていきたいと思っております。

○議長（小林哲雄）

下山議員にちょっとお願いがあります。最後に町長に伺うのではなく、伺うのなら最初に言って、それから内容を説明してくれると町長も答えやすいと思いますので、ご理解をお願いします。

下山議員。

○4番（下山千津子）

はい。

箱根には年間2,000万人の観光客が訪れるそうですので、先ほどの道路の件でも、箱根と矢倉沢の道路が開通すると、その1割の方たちが矢倉沢を通過して瀬戸屋敷、開成町の北部の瀬戸屋敷にお見えになったとしても大変な人数ではないかと思っておりますので、ぜひ、その点、よろしくお願ひしたいと思ひます。

これで私の質問を終わります。

○議長（小林哲雄）

暫時休憩いたします。再開を15時35分いたします。

午後3時29分